

柏崎刈羽原子力発電所再稼働に関する懇談会
《北条中学校区》

日時：令和6（2024）年4月6日（土）午後2時～3時30分

会場：北条コミュニティーセンター

司会：皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中多くの方からご参加いただきまして大変ありがとうございます。ただいまから柏崎刈羽原子力発電所再稼働に関する懇談会を始めさせていただきます。本日の進行を務めさせていただきます、防災・原子力課長の吉原と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。本日の懇談会の終了時間は午後3時半を予定しております。会の円滑な進行にご協力くださいますようよろしくお願いいたします。会に先立ちまして皆様にお知らせとお願いがございます。会の途中スタッフが写真撮影と録音をさせていただきます。写真は広報かしわざきや市のホームページに掲載するためでございます。録音は議事録を作成するために使用させていただきます。この点どうぞご理解いただければというふうに思います。また報道機関による写真撮影等もございまして併せてご理解いただければというふうに思います。それでは初めに市長の櫻井雅浩よりご挨拶申し上げます。

市長：皆さん、こんにちは。今日はお天気も良くて本当に外仕事、もしくは私も含めてですけども、山に行って遊ぼうかという方ももしかしたらいらっしゃったかもしれませんが、原子力発電所の再稼働を巡る地域懇談会に皆様ご参集賜りましてありがとうございます。地域懇談会というのは毎年7月頃原子力発電所の問題も含めていろいろな地域の課題について皆さんと意見交換をする会でございますけれども、今年も通常の地域懇談会は7月に予定しておりますけれども、今回はこの原子力発電所の再稼働をということで、一つテーマを絞って皆様のご意見や、またご質問もお受けしたいということで設定をさせていただきました。

少し前後お話をさせていただきます。今日は30分ほど私の方で、原発、それから原発の再稼働、また再生可能エネルギーなどに対する私の考え方をお話しさせていただいて、後半の1時間ほどで皆様と意見交換をさせていただきたいと思っております。

まず去る3月の21日に柏崎市議会が閉会をいたしました但其最終日に、柏崎商工会議所を初め商工会、経済団体が出された原子力発電所の早期再稼働を求める請願と、早く再稼働してもらいたいという内容の請願が議会に提出され、最終日16対5で採決されました。つまり原子力発電所を早期に再稼働してもらいたいという内容が議会から議決されたということでございます。16対5でございます。それを経て私自身は原子力発電、ご承知のようにもう市長職を8年目を迎えるわけでございますが、2回の首長選挙、過去4回の市長選挙に出ておりますけれども、2回は落選、そして2回当選させていただいたときも、原子力発電所には意義があると、そして再稼働には意義があると、しかし、徐々に確実に減らしながら、再生可能エネルギーなども、柏崎の環境エネルギー産業としていきたいということ、公約の一つとして申し上げ、当選をさせていただき、今8年目になっているということでございます。そして、今ほど先ほど、一番最初にお話しましたように、議会では請願が、早期再稼働を求める請願が採択をされ、私としては、条件付き再稼働を容認派という形になっておりますので、条件は誰に求めたかと申しますと、国と東京電力に対してでございます。国に対しては今までよりも実効性の高い避難計画、そしてまた避難に資する、道路設備などを作ってもらいたいということが一つ、また、東京電力には地元への貢献を今まで以上にしてもらいたいということ、そしてまた再稼働後、しっかりとした廃炉計画を出してもらいたいということまた、使用済みの核燃料を再稼働までにおおむね80%以下にもらいたいということを含めた条件、要件等でございます。

以降、座らせていただきながら、お話をさせていただきたいと思っております。まず、皆さんのお手元にプリントが2枚行っています。○・×・△と書かれたプリントと、報道発表、2022年8月24日水曜日と書かれたプリントの2種類でございます。

○・×・△の方をベースにお話したいと思っております。まず上の方にポツが二つあります。原発は私自身、現時点で先ほど申し上げましたように、柏崎にとっても日本にとっても重要であると、意義があると。そして徐々に確実に減らす、つまりずっと原発だというのは私の考えではありません。徐々に確実に減らしながら、7つある原子力発電所集中リスクを軽減していくことが大事だろうと。同時に、下のポツ、CN電力、CNというのはカーボンニュートラル、つまり炭素を出さないと、二酸化炭素を出さないということ、発電時には原子力発電所もCO2を出しません。再エネ、太陽光、風力なども、CO2を出さないということで、CN電力の供給の柏崎は拠点となるべきだというのが私の考え方でございます。もう少し具体的に原発、CN電力等に対する考え方をということで、別紙の方をご覧ください。

これは一昨年、2022年の8月24日に出した私のコメントでございます。これは一昨年来、柏崎市のホームページにも掲載されておりますし、今も掲載されております。国政府がGX、グリーントランスフォーメーションの方針、グリーントランスフォーメーションというのは、環境に配慮した電力の作り方、もしくは環境に配慮した産業の構築、といったものを目指した国の方針でございます。これが一昨年の8月24日に発表されましたので、それに対して柏崎市長としてどう考えるかということを書いたものでございます。一番から順番に読み上げさせていただきます。皆さんのお手元にありますので少し早口になりますけれどもご容赦ください。

- ① 再稼働の方針に、改めて柏崎刈羽7、6号機の名前が含まれるとするならば必然。
- ② 国の方向性、「安全性の確保を大前提とした上での原子力の最大限活用」が示された以上、新潟県におかれましては、「3つの検証」について、行政手続法の観点からも、明確な結論を早期に出し、原発、再稼働問題の議論を始めて頂きたい。
- ③ 稼働標準期間を40年から60年に延長する方向性、検討も、日本のエネルギーセキュリティ、また、気候変動、地球温暖化を防ぐという原発の環境性能を考えても、海外の事例を勘案しても妥当
- ④ 原子力規制委員会による安全審査などに長期間を有している現状を鑑みると、40年の期間から、審査期間、柏崎刈羽のように中越沖地震などで止めざるを得なかった期間、つまり原子炉稼働により放射化されなかった期間を減らすのが合理的ではないかと思うが、この点にもしっかりとした基準が求められる。
- ⑤ 私自身は1～7号機全ての再稼働は経済的にも、安全面からも合理的ではないと考える立場なので、従来申し上げているように東京電力には1号機～5号機の廃炉計画を出してもらいたいという考えに変化はない。もちろん、5つ全てを廃炉してもらいたいということではない。
- ⑥ アメリカ合衆国においても、1立地点で3、4の原子炉を有しているのが最高であり、福島事故を経験し、かつアメリカ、ヨーロッパ、中国などと比べても大規模地震が起きる確率がけた違いに大きい日本においてはエネルギーセキュリティ、環境性能を考えてもなお、原発は制約的であるべき、というのが私の考えである。
- ⑦ リプレイス、新增設の議論が出てくることは、ウクライナ情勢、エネルギー価格の高騰、経済、国民生活への影響を考えると、一般論として考えれば、これも自然な流れであると考えられる。
- ⑧ 柏崎刈羽原子力発電所の1立地点、柏崎市の市長として、この53年間原発賛成、反対と議論し続けてきた歴史に鑑みると、今、この時点でリプレイスだとか新增設などということは言える段階ではないと考える。

例えば、50年間言われ続けてきた「トイレ無きマンション論争」核燃料サイクルに明確な方向性、光が見えない。六ヶ所村の使用済み核燃料再処理施設は26回目の竣工延期である。日本が未だ先進国だとするならばあり得ない事態である。むつ市、青森県の苦悩を見るとき、原発立地点として、さあ、原発、どんどん行こう、等とは到底言えない。

柏崎刈羽の使用済み燃料プールは全体で約81%が埋まっている。再稼働を目指している7号機のは約97%、6号機のは約92%埋まっている。

⑨ バックエンド問題も、敢えて言うが、寿都町、神恵内村の「男気」に頼るようでは国のエネルギー政策とは言えない。

⑩ 本当に腰の据えた国民的議論を、早期に、そしてしっかりとしていただきたい。国の存亡をも占うエネルギー政策を「これを機会に」「やっつけ仕事」ではいけない。

納得がいく議論がなされ、結果が出されたとするならば、国がこれまで以上に、原発の科学的、合理的安全の確保を行い、住民が安心、かつ豊かな生活を享受できるような施策展開、原発の集中リスクの軽減、洋上風力発電の海底直流送電など再生可能エネルギー供給計画への柏崎市の参画等を担保していただければ、柏崎市はこれまで以上に国のGX、エネルギー政策の一端を担う覚悟はある。

ということ、1年半前、一昨年8月24日にコメントとして出し、今ほど今もホームページに掲載をしているところでございます。では○・×・△のプリントにお戻りください。では、なぜ今申し上げたようなことを私が考えるのかと、原子力発電所再稼働には意義があるというふうに考えるのかというその根拠を、これからお話をさせていただきます。

まず、最初に、福島事故における補償、廃炉復興などに関する経費、23兆4000億円、事実関係というところに書いておきました。これは実は別の会場でお叱りをいただいたんですけども、私はこの復興、廃炉、補償に係る23兆4000億円というお金は、実は東京電力が、このうち16兆円から17兆円負担する、ある意味で当然です。事故を起こした本人ですから。そして残りは私を含めて皆さんを含めて国民が負担することになっています。つまり、東京電力が負担するべき16兆円から17兆円、これを東京電力に生み出してもらわなければいけません。福島の復興廃炉、そして補償に、本当に矛盾している話ですし、おかしな話のようにも思いますけれども、私自身も、しかし現実として、東京電力がこのお金を生み出すためには、原子力発電所を動かして、1基当たり約1年間で、1100億円が東電の収益として上がると言われています。矛盾した話ではありますが、原子力発電所の事故の後始末をするために原子力発電所を動かして収益を上げ、その収益を福島の復興に充てなければいけない。先ほどお叱りをいただいたというのは、私に対して失望した、と。

市長というのは、市民の生命や財産を守り、市民のために働くのが市長の働きであって、東電の儲けを促すために、働くのが市長の仕事ではないはずだということで、失望したとお叱りをいただきました。しかし、私は東電に儲けさせために申し上げているわけじゃなくて、あくまでも福島の復興、補償を、そして廃炉に係る経費を、自らが稼いでもらわなきゃいけないということでその手段を一つの方法として、このように上げたということでございます。

それから2番目、電源構成、裏の方をご覧ください。裏の方をご覧ください。円グラフと、それから、横の帯グラフがございます。円グラフはちょっと古いデータでございますので、せっかくですので、同じような年度ですけど、こっちの方をご覧ください。

これは2022年度つまり2022年度の日本の電気、今この電気はついていますが、日本のこれは東北電力から流れてくる電気ですけども、日本の電気がどういう発電方法によって作られたかというグラフです。2022年度、つまり2022年度というのは、ウクライナのロシアの侵攻が始まった後の年度です。

2022年度は、そうしますと、原油価格も上がっている天然ガスの価格も上がっている。中

で日本は石油の火力発電が 8%、石炭による火力発電が 31%、天然ガスによる火力発電が 33%、つまり足し算をしますと 72%が、日本の場合、電気を作るために火力発電で CO2 をどんどん出しながら電気を作っているということです。

2022 年度は、福井や、また九州の一部で動きましたので、原子力発電が 6%、再エネ頑張ってきています、非常に頑張ってきていますが、水力、太陽光、風力と合わせても 22%の段階です。2022 年度は、これが日本のウクライナへのロシアの侵攻後、2022 年度の電源構成です。

翻って皆さんのプリントの真ん中辺、中国から始まっている主要国の電源構成をご覧ください。中国から始まっていますが中国は 63.3、そして石炭が 63.3、そして石油が 0.1、天然ガスが 4.8 でございます。これを足し算しても、つまり、日本の方が、残念ながら、火力発電による CO2 を出しながらの火力発電の割合が日本の方が中国より高いということでございます。アメリカよりも高い、日本よりも太陽光発電の割合が高いのはインドです。インドです。これが今の日本の現状でございます。原発の危険に比べたら、CO2 の危険性なんか、そんなもんでもいいだろうとおっしゃる方もいらっしゃいます。しかし、後でももしかしたらご質問あるかもしれませんが、CO2 の排出による地球温暖化は、皆さんも私も今年の夏、実感しました。38 度の夏です。雨がほとんど降りませんでした。お米を作ってらっしゃる方、大変だったはずですよ。私 62 になりますけど来月、子供の頃は、夏は 30 度ぐらいでせいぜい、35 度とか 38 度などという夏はありませんでした。そして、毎年のように全国で豪雨の被害、線状降水帯などということは、ゲリラ豪雨などという言葉があり、その洪水豪雨によって被害者が出ています。

昨年、1 年間新潟県で、去年の夏、熱中症で亡くなった人は 26 人です。新潟県だけで、去年、ひと夏で亡くなった方が 26 人です。全国で熱中症で亡くなった方が、昨年 1 年間で 1000 人以上です。そういったことを考えると、原子力発電所のリスクといったものも考えなければいけませんけれども、同時に地球温暖化、気候変動のもう現実となっているリスクといったものも考えなければいけないというふうに私は考えるところでございます。

下に日本列島が書いてあります。これは電気料金の問題です。東北電力、私達東北電力の電気を使っている方が多いわけですが、7833 円、家庭用の料金の、去年の 6 月頃です。この 4 月から多分上がるはずですが、それに対して、関西電力据え置きと書いてあります 5236 円、なぜか関西電力は、福井県の原子力発電所を動かしているからです。ここに九州は書いてありませんけど、九州電力も東北電力よりも圧倒的に安いです。なぜならば、原子力発電所を動かしているからです。右側の囲み記事、東北電力 65 万 5170 円、関西電力 53 万 1780 円これは家庭用ではなくて業務用日本は、柏崎は基本的な基幹産業は工業、ものづくりですけども、日本も基幹産業はものづくりです。鉄鉱石を輸入して、そして鉄板にして、鉄板を車にして、電化製品をくっつけて、車を輸出して儲かって儲けています。大きな一番大きな産業です。ことほどさように、物を作るには、電力、電気エネルギーが必要です。これだけ上がっています。先ほど申し上げたように、ウクライナ情勢の後、さらに上がっているところがあるわけでございます。そして原子力発電所を動かしている電力会社は電気料金が安くなっている現状です。

表の方に戻ってください。とはいえ、やっぱり福島のことを見ると、おっかねっかと、能登半島のあいつのテレビの絵を見ると、おっかねっか、逃げらんねっかというお声だろうと思います。

福島事故における放射線被ばく、UNSCEAR（アンスケア）と読むんですけど横文字の、国連の科学委員会、これは福島の事故 2011 年の福島の事故のあと定期的に国連の科学委員会が調査をし、報告をしているものであります。その中に黄色いアンダーライン、福島県民の健康被害で事故による放射線被ばくに直接起因すると思われるものは記録されていない、と記載されております。その次も、母親の胎内で被ばくした子供云々の子供については、そし

てまた下、甲状腺がん以外の放射線影響白血病云々見られそうにない、予想されない、ということが国連の科学委員会の調査によって記されております。ここに国連科学調査委員会のUNSCEAR（アンスケア）の本物のプリントを持ってきました。ここに書いてあります。

電気料金のことは先ほど申し上げました。その下、もう一つの黄色いアンダーライン能登半島の話能登半島地震の話です。あんなにうちが潰れて道路を塞いで逃げられないかと、屋内退避なんかできないねっか、というところでございます。残念ながら、石川県において一般住宅の耐震化率は46%から64%でした。平均して5割ぐらいしか耐震化が進んでいません。翻って柏崎市はご覧いただいているように、89%です。お隣の長岡も90%です。お隣の上越も87%です。

ここに、石川県、全部の市町村の高齢化率住宅の耐震化率を調べました。私、全部一つ一つ調べました。その結果、原子力発電所がある志賀町を中心に、この耐震化率46%から64%、非常に残念ながら低い耐震化率でした。2軒に1軒が耐震化されていけませんので、2軒に1軒というのは、お隣が倒れる可能性があるということです。いうことも含めると、少なくとも道路も同様でありますけれども、耐震化率に関しては、新潟県と石川県との差は30ポイントから40ポイントほど、柏崎、新潟県の方が高いということでございます。少なくともこの部分に関しては、福島県の状況に比べて、柏崎新潟県の状況は、安全性の部分の確度として高いということでございます。

それから、能登半島の今回の地震の割れ残り断層といったものがあって、割れ残り断層が動くと、ばれ残り断層が動くと、3mの津波が新潟県に押し寄せるといふに言われておりますこの1月以降、これは今ご覧いただいているのは、皆さんのご家庭にある防災ガイドブックにある1ページです。

中央地区の、要は、みなとまち海浜公園花火会場の図面です。そして、能登半島地震の割れ残り断層による津波の高さが予想水位は3mだと言われているんですが、この中央地区の予測のシミュレーションは4.9mにしてあります。これは新潟県が能登半島の地震が起こる前にシミュレーションしたものです。4.9mの津波が来たとしても、せり上がりも含めて、ここにとどまると色がついているところが、浸水するという水が来るといふことです。色がついてない白いところは水が来ないだろうといふことです。

私もこの辺に住んでいますが、結果的に柏崎市内において、99%の住宅地域が水が来ないといふことです。残り1%、この色が塗られた。1%住宅地域があります。その地域の方々には、もうここは浸水する可能性がありますよといふことはお伝えしてありますし、ここにも書かれています。そして、その地域の方々には、そのときにはここに逃げてくださいといふ場所も示してあります。

それから下の方に行きまして、東北電力、今私達が使っている電気はほとんどが東北電力によるものが多いと思いますが、東北電力の女川原子力発電所がございまして。女川はご承知のように、東日本大震災において、被災率、災害を受けた率をいいますけれども、被災率が一番高かった自治体です。約人口1万人ほどの自治体ですが、その中であって、死者、行方不明が800人以上、1割近い方々が亡くなられたり、行方不明になった方がいらっしゃる自治体です。大きな被害を受けた自治体です。そこには東北電力の女川原子力発電所があります。あのとき、あのときというのは東日本大震災のときに、女川の原子力発電所は、町の方は壊滅的でしたが、女川の原子力発電所はほぼ無傷でした。そして女川の町民の方々が原子力発電所に逃げた、避難したという実際もございまして。その女川の原子力発電所が今年の9月に動き始めます、予定です。既に宮城県の知事、女川の町長、石巻の市長の事前了解は得ています。

結果、9月以降柏崎にも、この女川原子力発電所の原発によって作られた電気が流れてきます。よく東京の人間が使う電気を何で俺たちがおっかねえ思いして認めなきや駄目なんだと

いう議論がございますが、宮城県において私が知る限り、なんで柏崎が使う電気を、新潟県が使う電気を俺たちがおっかねえ思いして、原発、これだけ東日本大震災でおっかねえ思いした俺たちが、また認めなきゃ駄目なんだという議論は聞こえてきません。既に宮城県の知事、女川の町長、石巻の市長の事前了解は終わっています。

それから一番最後のポツです。東京電力は大きな事故を起こしました。その反省と、そしてこれから原子力発電所、柏崎刈羽動かすということに関して責任を自覚し、そしてしっかりと安全を確保しながら、この発電所を担っていくという覚悟を示すものと私は考えていますが、東電の本社の原子力本部 300 人を、柏崎に移します。

300 人が柏崎に住み、私達とともに生活をし、そして、この 300 人のうち 200 人は駅前のエネルギーホールを建て替えて、200 人はここで勤務し、残り 100 人は、原子力発電所のサイト内で勤務をします。私はこれは東京電力がしっかりと安全を確保する担うという、もう 2 度とあのような間違いを起こさないということを示した覚悟を示すものというふうに考えています。評価をしています。もちろん、それによって 300 人が新たに柏崎でお住まいいただくわけですので、経済的な効果もあります。しかし、私は何よりも 300 人が柏崎に進むという東京電力の責任を担うという覚悟を評価するところでございます。

その下にある○・×・△表は全部私が自分で作った表でございます、文書でございますが、○、先ほど申し上げているように資源小国ほとんどない国です。エネルギーセキュリティ、安定性、気候変動、地球温暖化防止、それから 5000 人から 6000 人の方々そのうち 54%が柏崎市民です。働いていらっしゃる。13 ヶ月にいっぺん動き始めると、約 2 ヶ月間ほど定期点検があります、ここでも数千人単位の雇用が発生します。立地自治体、私も含めてですけれども電気料金が軽減されています。毎年 1 万 8912 円が、皆様のご家庭の口座に振り込まれているはず。もちろん俺は今もう、お金いらんと、原発認めないんだから、俺はいらんという拒否をされている方もいらっしゃるだろうと思いますが、基本的には家庭用の電気料金の軽減部分ということで、年間、ご家庭に 1 万 8912 円が振り込まれているはず。す。

それから、自治体、柏崎市が受ける国からの交付金、それから固定資産税等の原子力発電所があることによる財政的なメリットも○であります。そして 1888 年明治から、日本石油の本社が柏崎にあり、石油産業で、日本の経済を支えてきた、日本の経済を支えてきた、それから 1969 年昭和 44 年から原子力発電所での電力で日本の経済を支えてきたという自負、誇りがある。これは私の考えでございます。そんなもん、って言う人もいらっしゃると思うんで、△もつけておきました。

×福島事故、広島・長崎原子爆弾の被害イメージ、これは×です。使用済み核燃料、先ほど申し上げましたように最終処分バックエンドがまだ確定していません。地震が多いです。新潟地震、中越、中越沖、能登半島地震、地震が多いです。×です。テロの標的になりうる。それから、冬場雪が激しい、風が激しい。残念ながら、×です。それから、原発誘致をして賛成反対、他のことはともかくも原発のことで市を二分してしまってきた。この 55 年間というのは×だろうと思われ。もちろん、いや、それもまたいい、地域の活性化なんだという方もいらっしゃるかもしれないので、×の下にも△をつけておきました。

以上が私の原子力発電所、また原子力発電所の再稼働に関する考え方であり、また、再生可能エネルギーを含めた私の今後のエネルギー政策、柏崎市の施策に対する説明でございます。後の方は皆さんの方からご質問なりご意見を賜りたいと思います。よろしく願いいたします。

司会：それではここからはご参加いただいた皆様からご質問ご意見の方をお受けしたいというふうに思っております。多くの方からご質問を受けたいため、お 1 人様 1 問ということで

させていただければというふうに思います。1問ごとに市長の方から回答をさせていただきます。ご発言いただく際には挙手をいただきましてスタッフがマイクをお持ちします。町名とお名前をおっしゃってからお話をさせていただきますようよろしくお願いいたします。なお最初に北条校区の方のご質問をお受けしたいと思います。その後、北条校区以外の方のご質問をお受けしたいと思います。ご協力の方よろしくお願いいたします。

それではいかがでございましょうか。はい、今マイクをお持ちしますんでお待ちください。

質問者：はい。〈町名〉の〈名前〉といいます。この4月から町内会長ということで対応させてもらっております。今ほど市長さんのお話の中で、再稼働に向けての状況ということで、エネルギー政策、地球温暖化等々、動き、方向性、条件要件等については今ほどの説明の中で、一定の理解はさせていただいたところであります。その中でですね、やっぱり私達としては、私としては、安全安心がどのように見えてくる実感できるのかというような、時間として受け止められるのかというところがやはり、住民としては思っているところがございます。安全については、当然あのお話あった通り、東京電力が第1の中で行うことになるわけですが、その対策、体制等についてやはり規制委員会なり、国県市なりが幾重にも、チェック指導監督していくというようなことが当然に行われると認識しておりますし、対応していただきたいというところであります。

私どもが安心ということについて、そうだというふうなことを考えると、一つは今話した、とにかく安全にきっちり動いているということがわかるということで、もう一つは起きてはならない当然ことですが、事故のときの対応、避難その後のフォロー、そういうことについて信頼、安心ができるかというようなことになろうかと思っております。

記事等にもありました、5つの要望、また避難路とかというようなことでありますけれども、この北条地区の一番奥のところですが、やはり今ほど地震のお話はあったわけですが、雪ということについてやはりちょっとお話がなかった。そうしたときに道は私どものことから言えば、県道は1本ですし、行き止まっておりますし、大型バスの回転する場もないような状況にあります。原発から公会堂までは、10キロ200メートルぐらいということで、また方向的にも、東南東になるんでしょうか、風が吹いてくる方向になるところです。やはり雪のときにどうなるのかというようなところも心配でございます。新聞記事にもありました知事の方も幹線道路までの避難をどうしていくのかというようなこともありましたけれども、とにかく道が止まっている、その道が止まってしまったら、もう動くこともできない。

それから一昨年12月の預金ときには、月曜から金曜の夕方まで停電しました。復旧した人は、復旧に当たって全力でやっていただいたので、この日数がかかったということについて、不満を持っているわけではありませんけれども、やはり、そのような中で、原発事故起き起きては困りますけれども、ないということを信じておりますけれども、自宅待機と言われてもなかなか耐えられる状況にあるのかどうかというようなことにあります。1にも2にもやはり、安全、安全対策と安心できるというようなことで、いろいろやはり避難についての心配等もあろうかと思っておりますので、国に実効性のある避難計画というお話もあったところがございますので、ぜひここも既にいろいろ情報を整理を当然されているところがございますので、ぜひもう一度具体的な状況を地域に確認したりした中でですね、雪等も含めた中で、安心できるような避難なり体制なりの情報提供といいますか、構築をお願いしたいところです。以上です。

市長：はい、ありがとうございます。まずその安全安心ということで、まずは当事者、東京電力そしてまたその監督者であるところの国などにしっかりとその安全を確保してもらいたい。そうしてその上で安心をするためにはどうしたらいいのかということで、例えば事故時、避難の体制ですとか、特に雪が降っているとき、一昨年の北条は停電が長かったわけ

ですけども、そういったことも含めてのご心配だろうと思っております。

今ご覧いただいているのは、これは田中俊一先生、規制委員会の初代の委員長が作られたデータ資料でございますが、要は田中先生がおっしゃるのは、私もその通りだと考えておりますけれども勉強させていただきましたが、慌てて急いで避難をしなくてもいい場合が多いということです。

これは、先ほど申し上げたように、放射線被ばくに直接起因する死は、東日本大震災のときにはゼロだったわけです。0です。そしてその影響も国連の調査報告の中ではほぼ今後も考えられない。この関連死というのは何かということでございますが、無理に急いで避難してしまった病院に入院中の方も、お年寄りの特別養護老人ホームなど施設に入っている方も、無理に残念ながら急いで慌てて避難してしまったがために、避難先で亡くなられた方、関連死と呼ぶというところでございます。

そういった中で、今回の新規制基準というのが、新規制基準というのが作られたわけですけども、新規制基準では、先ほどから申し上げているように、慌てて避難しなくてもいい、屋内退避をしておく、ということで、ただ、先ほど申し上げたように、能登半島の地震の例を見れば、屋内退避と言われても、うちが潰れたらどうしようもねえねっか、という声があるわけです。全くそれはおっしゃる通りです。しかし能登半島における耐震化率と日本、柏崎における耐震化率は格段の違いもありますので、基本にご自分のご自宅が心配な方は、近くの公会堂や公の施設に屋内退避をするということが、国の新しい規制基準による考え方でございます。

それから道路等の整備に関しましては、北条地区はこれをご覧いただきたいと思いますが、知事と品田村長、刈羽の村長さんと私で5つ要望しましたが、国道291、ここは皆さんの北条地域前後になるわけでございますが、皆さんは、主にこちらの方。オーナーが長岡の方から湯沢の方に避難することになっていきますけれども。

皆さんは違うんですけども、市民の中で約6万人弱は、柏崎でいう人口の約4分の3、約75%ほどは、上越市、糸魚川市、妙高の方にこっちに避難します。ということで、こっち側に避難する経路が弱いと。一昨年の雪で8号線も止まりました。高速道路も止まりました。日本で唯一、強風で止まる可能性がある、渡ることができない可能性があるのは、米山大橋です。日本で唯一です。そうすると困るから米山インターチェンジを米山大橋の柏崎側に移してもらいたい、もしくはここにあるサービスエリアから直接高速道路に乗れるようにしてもらいたいという要望が1番目。2番目は、高速道路も止まったり、8号線も止まったときに、上越妙高の方に逃げられん、糸魚川方面が逃げられないということで、皆さんからちょっと離れていますけども、この辺の方々は、いわゆる野田の交差点から、県道があるんですけど期間は閉鎖していますので、ここにトンネルを作ってもらいたいというのが2つ目。上方にスマートインターを作ってください、3つ目。4つ目、曾地に5キロ圏内にスマートインターを作ってください。そして5つ目、これが一番早くしてもらいたいということで、8号線バイパスを早く開通してもらいたい。PAZ原発から近い方々が、西の方に避難するためにこの8号線バイパスを早く完成させてもらいたいということを要望しています。当然のことながら皆さんがお住まいの北条のこの291除雪も、また道路の改良等も随時原子力防災に関わらず、お話を進めさせていただいているというところで、まだできないねっかと言われればそれまでですけど、この取り組みは確実に進めさせていただくし、国の方も、その心づもりは聞いておるところでございます。

司会：〈質問者〉様大変ありがとうございました。他の方、はい、今後ろの方。今マイクをお持ちしますんで、お待ちください。

質問者：〈町名〉の〈名前〉です。直接こんな形で市長さんに私の考えをお話できるという

のは、とても嬉しいことですが、原発には反対です。一つということでしたので、ご指示がね、いくつもあるんですけど、一つに絞ります。新潟病院独立行政法人国立病院機構新潟病院に入院されている人の特徴を、市長さんはご存知でしょうか。また、市議会議員の方にもそれは、あの賛成された議員の方にも本当ならお聞きしたいことですが、今日市長さんいらっしゃるので、ご存知かどうかお聞きしたいと思います。

というのは、神経難病、よく言われる、筋ジストロフィー症、それから重症の心身障害者の方々、そういう方々が市内はもちろんですけど県内各地、県外も長野県とか群馬県とか、埼玉県の方なんかもあるかもしれませんが、私ももう10年前にそこを退職、10年以上前に退職しましたので、どの地域の方が何人ということまではわかりませんが、200人近い方々が一般の方々の他に入院されています。生活をしておられます。それで職員の人に聞いたところ、今、人工呼吸器使っている方が120台、人工呼吸器が120台稼働しているそうです。それからあとは口からの栄養、流動食の患者さんはやっぱりいらっしゃいます。聞いたところによると、新潟病院は防護対策として、建物は防護されているということでした。それから食料の備蓄、水、電気も、何日かは大丈夫だというふうに伺いました。ところが、その多くの方々は、本当に指しか動かさない。腕1本動かさない。首は動かさない。足も動かさない。日常生活の全てを人の手に委ねているわけです。呼吸もそうです。自立呼吸はできないので、呼吸器に頼って生活をしています。避難道路、避難道路と言われますけど、そういう人たちのところまで、例えば屋内退避をどのくらいまで続けられるのか、屋内と防護しているから続けられるのかもしれませんが、その人たちの生活への支援、援助はどうなるのか。多分外から入ることはできませんよね。公務員だから命令ができるって私第1回目の説明会のときに、傍聴みたいな形で参加したんですけど、おっしゃっていましたが、果たしてそんなことができるのか。被災した人たちも、自分の家族とか、自分の身のことがありますから、私そこをぜひ、今まであまりそこまでの防災計画、避難計画は伺ったことがありませんでしたので、この際ぜひ私その人たちの代弁者として、直接お伺いができるということは、このことについては良かったと思っています。よろしくお願いします。

市長：はい、ありがとうございます。今ほどの〈質問者〉様ですか、お話を特に私自身身近な話として、聞かせていただきました。こんなことを話していいかわかりませんが、私小学校のときから、療養所、昔は国療と呼んでいましたよね。新潟病院という名前ではありませんでした。国療の付属の養護学校、いわゆる筋ジストロフィーの子供さんとの交流、私がまだ小学校のときからございます。そしてさらに、もしかしたら〈質問者〉様にもお世話になったかもしれませんが、私の父も、新潟病院で最後息を引き取りました。それまでの間、2年8ヶ月、先ほどお話されたように、人工呼吸器で、移動で、という状態でございます。私が市長になる前の話でございます。そういった患者さんがたくさんいらっしゃることもよく承知しております。また、新潟病院が小児疾患に特化した医療人材を揃えていらっしゃる、ケアしていらっしゃるということもよく承知しております。

昨日は付属看護学校の入学式に私も出てまいりました。毎年出ています、卒業式とともに。そういった中で入院されている方がいらっしゃる中で、いざ事故が起こったときにどういうふうに対応するのかということに関しては、これはもちろんのこと、新潟病院のみならず、それから医療センターのみならず、それぞれマニュアルができて、そして体制ができていうふうに対応しております。もちろん不安は皆さんお持ちでしょうけれども、それぞれ公務員であるか、否かに関わらず、医療に関わる方々の責任の範疇の中で私は患者さんを残して、行くようなことはないだろうと思っています。

もちろんどうしても仕方がない方はこれ仕方がないわけです。ご家庭に誰も助ける者がいないということであるならば、医療現場を離れるということも事例はあるだろうと思います。しかし、病院の方も新潟病院のみならず、総合医療センターも含めて患者さんの命を守るということに関して、ご尽力いただけるものだと思いますし、国の方としても原子力災害のときに、どういう体制で臨むのかということ、しっかりとした対応をいただいている

と、また体制を作っているというふうに考えております。

司会：〈質問者〉さん大変ありがとうございました。他に北条校区の方でご質問ある方おられますでしょうか、いかがでございましょうか。はい。後ろの方、今マイクお持ちしますんですお待ちください。

質問者：お願いいたします。質問は一つということで、お願いということで二つお願いを言わせていただいてもいいでしょうけれども・・・。

司会：町名とお名前だけお聞かせいただいてもよろしいでしょうか？

質問者：〈町名〉の〈名前〉と申します。お願いいたします。お願いということで二つ言わせていただいてもいいですか、それとも時間がなければ一つということで。今、市長さんが懇談会でこのように市民の声を聞いていただくということでありがたいんですが、どの会場でも多分、年配の方が多いと思うんですね。大体20代から50代っていうか40代ぐらいの働いている方、子育てしている方ってとても少ないと思うので、その方々の意見をぜひ、時間をかけない方法でお願いできればと思います。一つ考えたのが、保育園、幼稚園、小学校、中学校と高校とありますので、そちらの方の学校に、市の方からアンケートを配っていただき、それも内容は、再稼働賛成反対、その理由、あと意見、その3つだけにして、無記名で封書にして、それをまた市に戻していただく。ですから学校の先生方にももちろん集計などはしていただく必要はありませんし、そしてそこで市民の意見が全部、市長さんが聞いてくださったということで、それとあわせて再稼働の請願が採択されたことについてあわせて判断していただかないと市民の理解というのは、まだなっていないんじゃないだろうかという疑問に思っています。以上です。

市長：はい。〈質問者〉様ありがとうございました。確かにこの会場を見てでも私も62ですし、皆さんもそれなりに年を重ねていらっしゃる方が多いというふうに、拝見をするところでございます。確かに子育て世代の方々若い方々が、どの会場もそう多くはございません。そういった声をどうやって聞くんだということですが、結論で申し上げて学校を使って、そのようなアンケートをするつもりはございませんし、絶対にしません。そんなことは。では、どういうふうに意見を聞いていくのかということですが、既にもう、行っております。

これは、ご覧いただいているのは、4年前ですけれども、4年前ですけれども、エネルギー政策に対する市民意識調査です。これは世代、若い方々もお年を召した方も、統計学的にしっかりとしたデータが出てくるように、公平な調査方法で行った意識調査です。

原発の1号機から5号7号機まで、今後どうあるべきだとあなたは思いますか。全号機1号機から7号機全ての再稼働が必要6.1%、できる限り減らしていくが限定的な再稼働が必要29.2%、徐々に減らしていき、将来は全て廃炉にする39.4%、直ちに全号機を廃炉するべき19.2%。選択肢の3が、評価が分かれました。

私どもは7つ全部動かすのではなくて、それから6基、5基動かす。5基を減らして行って将来はゼロにするというのを考えたわけですけれども、廃炉という言葉、廃炉という言葉があるじゃないか。つまり、39+19、58%が廃炉を求めているじゃないかというふうに解釈される方がいらっちゃったんで、私どもの考え方とは違う解釈をされる方がいた、いらっちゃったんで、また違う聞き方をしました。

私どもは全部動かせという人が6.1、減らして行って、限定的な再稼働が必要が29、減らしていくけども最後廃炉にするという、部分的に動かすけれども、最後は全部廃炉にするというのが、これ足し算するともう70%ほど。そうですね、70%オーバーになります。というふうなことだったんですが、いや違う廃炉だろうと半分は廃炉だろう、ということだったん

で、聞き方を変えました。

柏崎市では、平成 30 年に、2018 年に柏崎市地域エネルギービジョンを策定し、限定的基数、原発の基数、期間限定的に原子力発電所の利活用、動かすこと、活用すること、利活用と風力、太陽光、蓄電池、水素などの再生可能エネルギーの産業化によるカーボンフリーのまちづくりを進めています。どう考えますが、大いに賛成、おおむね賛成 71.5 です。

71.5、大いに賛成するが 27.6、おおむね賛成が 43.9 ということでございます。

そして、これは 4 年前じゃないかと。言われますが、この後、ウクライナへのロシアの侵攻があり、全国のそれぞれの新聞が、国民に対して、原発の稼働に関して世論調査をしました。その結果は、どの新聞を取っても、過半数が原発の稼働に賛成でした。柏崎市は、今申し上げたように、限定的な原子力発電所の利活用と再生可能エネルギーを含めた、こういった産業化を進めようとしています。

そして全国でも、稼働に賛成過半数でした。能登半島の地震が起こって、一つか二つの新聞社の世論調査は、原発の稼働に過半数は欠けました。40%台に落ちたところもあります。ということを含めて、少なくとも柏崎市における世論調査は、もう既に行っていますし、この数字は、原発の再稼働の方に、プラスになることがあっても全国の調査傾向を見ても、マイナスになるということはないだろうというふうに判断をしております。以上でございます。

司会：〈質問者〉様ご協力いただきましてありがとうございます。はい他の方がいいかがございましょうか。はい。真ん中の奥の方、マイクをお持ちしますんでお待ちください。

質問者：ありがとうございます。私は〈町名〉の〈名前〉と申します。本当に私にとっては原発は反対です。本当に初歩的なことを市長さんにお聞きしたいんですが、柏崎刈羽の使用済燃料プールは全体で約 81%が埋まっている、再稼働を目指している 7 号機のは 97%、6 号機のは約 92%埋まっていると、先ほど話されましたが、ここで、もし原発が動くとなれば、その使用済燃料もどんどん増えていくこととなりますよね。そうすると、このパーセントがまたどんどん上がっていくこととなりますし、はっきり言って、ゴミ箱のない原発は私は動かす必要はないと思いますので、その辺の市長さんの考えをお聞きしたいと思います。本当にあの市民はいろんな方がいると思うんですけど、私は反対です。以上です。

市長：はい、ありがとうございます。今ご覧いただいているのは、先ほど申し上げたものをグラフにしたものです。私が作ったグラフでございます。今動かそうとしているものは 7 号機、今改めてご発言いただきましたけれども、燃料プール 97%埋まっています。全体で 81%でございます。これを私は概ね再稼働までにおおむね 8 割以下にしてもらいたいということをお東電に要求しているところでございます。

それがどういうふうになるのか、ということでございますけれども、7 号機にある使用済み核燃料空いている容量の大きい 4 号機のプールに移します。それから、その 4 号機のものかどうかわかりませんが、先般、改めて発表されましたけれども、青森県むつ市にある使用済み核燃料の中間貯蔵施設、一時貯蔵施設がこの 7 月から稼働することになります。

つまり、柏崎刈羽にある、今 81%全体であるところの使用済み核燃料が青森県むつ市の中間貯蔵施設に移ります。そして、7 号機のは他の号機のプールに移すという形の中で、7 号機のプールが 8 割以下になるということでございます。

司会：はい、〈質問者〉様大変ありがとうございます。他、北条校区にお住まいの方、ご質問ある方おられますでしょうか。

質問者：〈町名〉の〈名前〉でございます。先ほどの再稼働の中でですね、稼働時の寿命と申しますか、40 年を 60 年とか、そういうようなことも話題になっていると思いますけれど

も、一つ日本ではまだそこまでの実績はないと思うんですけども、海外の事例というのは、何年まで確認されているのかということと、先日というかだいぶ前ですけども、10年も停止していた配管の中に、あんな大きい穴が開いた、という問題がありましたけども、動いてないときの期間を除くというのはおそらく相当不合理だと私は思います。穴の開いていたことについての説明はあまりはつきりされてないけども、太い管もあれば細い管もありますから、その全ての穴が開いてないことをどうやって確認するのか、それを教えていただきたい。以上です。

市長：はい、ありがとうございました。稼働のいわゆる長期間の稼働の海外における実績ということでございますけれども、海外でも60年稼働している原子力発電所はまだない、というふうに承知しております。日本も40年オーバーを認めているわけでございますけれども、一番長いものでも60年まで行っているものはないというふうに考えております。その稼働期間をいつまでにするかということに関してはちょっと私手元に資料ございませんけれども、日本は最大でも60年というふうにしていくという部分は、科学的な合理性があるというふうに私も考えているところでございます。

それから、〈質問者〉様からご指摘をいただいた配管の穴ですけども、私もあの穴の開き方、真円に切り、綺麗に切り取ったかのような丸い円の穴がありました。そういったことも含めて東電から説明から所長もしてもらったんですけども、私自身も、これは本当にちょっと技術的なことなものですから私も理解できませんでした。

しかし、そのようなことが今後ないようにという説明は理解をしたところでございます。それから、配管の調査の仕方に関しては、申し訳ありませんけど私は残念ながらそこまで詳しいものが、知識がございません。申し訳ありません。

司会：〈質問者〉様ありがとうございました。他の方がいいかでしょうか、北条校区の方はひとまずよろしかったでしょうか。はい、そうしましたら北条校区以外でまだご発言されていない方、優先的に聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。はい、どうぞ。今マイクをお持ちしますんでお待ちください。

質問者：はい。私は〈町名〉の〈名前〉といいます。昨日一昨日東中校区の説明会のところで、何かちょっと腑に落ちないなというところがありまして、市長は、市長になってから8年間、それからちょっとまたちょっと開いて遡って、その前の11年間ずっと一度も自分の考えを変えたことはないとおっしゃったんですけど、ちょっとそこが私腑に落ちなくて、あの前にあの池田千香子さんが選挙のときに、市長は池田さんの応援演説されて、それで福島原発を見たら、自分は考えを変えたとおっしゃったんです。私そのとき本当良かったなと思いました。中越沖地震ですごい怖い思いして、そのときにもう原発駄目だなと思って、それから東北、福島原発事故があったわけですね。それでそのときに本当にあの櫻井さんがそういうお考えに変わったということがすごくほっとしたんですけども、それがまた変わりましたよね。なんか、とても信じられないなと思う部分があります。それがどういうふうに変ったのかを教えていただきたいのです。

さっき、先ほどすいません、あの一言ちょっと、指摘させてもらいたいんです柏崎は東北電力の中ですから、東北電力が起こした電気が流れてくるのは当然だと思います。だから、女川で起こされた電気も流れて来てもちっともおかしくないと思うんですが、東京電力は東京の圏内の方なんですよね。だから、そこに行くっていうのと、女川のがこっちに来るというのはちょっと違うと思うんですがいかがでしょうか。

市長：はい、その前段の部分は何度も申し上げていますがけれども、池田さんの応援演説をしたのは、多分池田さんが最初に知事選挙か何かに出られたときに、出陣式のときに1回だけ、演説をした覚えもありますけど、そこで福島事故の後私の考え方が変わったという部

分を発言したかどうかは覚えておりませんが、少なくとも私は、福島事故の後、自分の政治団体を解散して、そしてそのことを皆さんにお伝えするために、新聞の折り込みチラシを入れました。そこに私は間違っていたということも書きました。そして、同じチラシの中に、先ほど申し上げたように、しかし全く矛盾する話だが、原子力発電所の再稼働は認めざるを得ないとも書いています。それはしっかりと書いてありますので、私は、福島の事故の前まで原子力発電所の安全性といったものを、あまりにも過信していた、ということに関して間違っていたというふうにした、そして、それを私自身、受け止めて、政治から身を引くと、記したわけでございます。

そして、そこには原子力発電所の、矛盾しているけども、再稼働は、認めざるを得ないというふうにも書いてあります、ということで私の言葉遣いを解釈するということだろうと思えますし、その後段の方、同じですよ。基本的には、新潟県は東北6県に含まれていません。

東北電力はそうです。しかし、何度も申し上げますように、東北電力の女川の原子力発電所があるのは宮城県です。宮城県で、原子力発電所によって作られた電力が宮城県以外のところに送られてきて、電力の供給を受けるということに関しては、東京電力の原子力発電所があって、私達は使わないけども、東京の方々が使うために電力を作るということの構図は同じだろうというふうに考えております。

質問者：新潟県は東北電力の中にあるんでしょ。

市長：そもそも、今は自由化なんで、どこの電力会社使っても構いません。

司会：はい。〈質問者〉様ありがとうございました。それでは先ほどから手を挙げられている奥の方、今、マイクをお持ちしますんでお待ちください。

質問者：〈町名〉の〈名前〉と申します。なぜ、11会場なのかっていうのがとっても不満です。本題に入ります。安心できる要素が何もないんですね、再稼働をするための要素が。地震は確実に昨日も今日もっていう感じで起きております。しかも大きな地震が、そのための避難経路っていうのは本当にお粗末でして、残念ながら1月1日私は柏崎におりませんでした。娘の神奈川の方におって正月を迎えておりましたので、友達がすぐ連絡してくれました。ちょっと中越沖地震より長めの揺れだったよと。帰省した子供さんたち、お孫さんたちが、おばあちゃんが買い物にドンキに行っていて不安になったのでどうしたらいいかと。医療センターの駐車場ならお互いに寄りやすいし近いからと言ったのですが、ドンキからあの252を渡るのに1台2台しか動かないような状況で、とても避難とか、そういうような状態ではありませんでした。松波町も然り、国道8号線も然りということを知っております。東本町から四谷についてでも、皆さんそうだったということを知っております。市長さんは1日の日、あの道路状況をご確認なさいましたでしょうか。福島のような条件が全く収束しておりません。再稼働はもってのほかです。17、8年経って止まっている複雑な世界一の機械がまともに動くと思えますでしょうか？昨日停まった自動車とかじゃないんですよ。確認ができないんです。2週間ほど前でしたか、福島の炉心の方の映像も出ました。ああいう確認も全くできないわけですよ。

それをどう考えるか、怖くございませんか。私ども不安でしょうがないんですね。地震が来るたびに、原発のことを考え、どのように逃げようか。そしてそれが不可能に近いとなると、放射能安全だから避難しないで、自宅待機をしてくださいっていうことは、少数の柏崎市民をここへ閉じ込めることになるわけです。

とてもじゃないけど、私達住民の気持ちを考えていただいているとは思えないんです。ここまでは私の持論ですが、市長さんのこの中で5番の5番、6番のところ非常に引っかかります。特に6番のアメリカ合衆国においてというところから始まる文章の最後原発は、規制

的であるべき、これはどういう意味か教えていただきたいと思います。

市長：はい。〈質問者〉さんのご意見をお話を伺って、私ももう30年以上になりますけれども、お互いなかなかかみ合わないところでございます。30年間、もちろん私に不安はないのかというご質問でございます。もちろん不安はあります。心配もあります。しかし、これもどの会場でも何度もいつも申し上げているんですけれども、世の中、100%いい、ということはないわけです。そこに近づけようと思って私達は、私は今、市長として、いろいろな政策を積み上げさせていただいております。

道路状況を確認しているのかということでございます。私はその当時、1月1日は岩上の原信で買い物をしていました。妻と子供と一緒に。そして地震直後、私は車に乗って市役所に駆けつけました。多分4時半すぎ、つまり地震が起きてから10分か15分ぐらいの中で行けたと思います。その時、交通渋滞はありませんでした。その後、岩上の交差点は交通渋滞が発生しました。またいろいろな各方面から連絡があって私が電話をしたりして、交通状態の状況、もしくは道路に設置されてあるカメラなども含めて、そしてまた荒浜、原発の地元の方々からの映像、写真も含めて、道路状況はその後も含めて確認をさせていただいたところでございます。

しかし、概ね1時間後ほどで、その渋滞は解消しているというふうに承知をしております。確かに西本町に住んでいらっしゃる方々が私に直接電話をよこして、鶴川まで避難してきたんだけど、鶴川のコミセンが無くなっているぞ、というようなお話もありました。

やっぱりご心配なんだなということで、先ほどご覧いただいたようなハザードマップをご覧いただきながら、皆さんに、皆さんに町内会長さん、コミセンの方々に集まっただいて、皆さんの地域は白色の地域の方々は、津波の心配がないから、このガイドブックに出てまいせんけども、こういうふうに白地のところの方々は避難しなくても、津波で避難しなくてもいいんですよということを改めて町内会長さん初め皆さん、沿岸地域の方々にお話しました。この方々がみんな避難して車で移動してしまったものですから、渋滞が生じたというところでございます。

そういったことも含めて、田中先生のお話の中にもありましたけれども、私を含めて市民の皆様お1人お1人に、こういった状況のときには、津波は来る確率は非常に低いんだということも含めて、そして原子力災害がもし起こったときに、どうしたらいいのかと、慌てて先ほどの関連死のことも含めて、慌ててすぐに避難する必要はないんだ、ということを含めて市民の皆さんに、繰り返し、繰り返しご説明していくことが私の仕事であるというふうに考えております。

質問者：（発言あり）

司会：〈質問者〉様すいません、他の方もおりますので大変恐縮であります。他の方、先ほどから手挙げられている方、今マイクをお持ちします。

質問者：すいません、〈町名〉から来た〈名前〉と申します。今回のこの会なんですけれども私、田尻会場でも参加をしたんですが、そのときはですね、会場の雰囲気にごく圧倒されてしまって、発言をちょっとしたいなと思っていたんですけれども、躊躇していました。しかしながらですね、今日までのこの2日間ですね、やっぱり市長に直接意見を伝えられる良い機会を逃してはならないなと思ってですね、ぜひ今日発言をしたくて参加をしました北条地区の皆様におかれましてはご容赦いただければと思います。

はい。先ほども後ろの〈質問者〉さんからだったと思うんですがこういった会、一昨日もそうなんですけれども集まっている方々ともご年配の方が多いと私も感じております。あの田尻会場の若者の意見も聞いてほしい、誰もがこういった会に参加しやすいようにとか、あるいは何回も開催してほしいといった声もありました。私が感じているのは、私は40代なん

ですけれども、あるいはもっと若い世代の方もそうなんですけれども、原子力発電所というものは、もう柏崎市にも存在している中、要は、あって当たり前の中で生まれ育ってきました。なぜ発電所ができたのか。その歴史ですね、日本経済を支えるために誘致されたことなどといったことは、自ら勉強しない限りはまず情報として入ってきません。そのような私のような世代、若者たちにですね、原子力のことを尋ねてもよくわからないとか、何となく怖いとか、あるものは使えばいいんじゃないの、電気料金が安くなるならいいんじゃない、市長や知事がいいっていうならいいんじゃないのといった、こういったやっぱり会にはやっぱり入ってくれないって言うかですね、自分ごとのように興味のない方、何も知らない方が結構大多数かなというふうに私自身は感じています。

そこで私の意見というか、要望になるんですけども、柏崎刈羽原子力発電所というのは、やっぱり切っても切り離せない、とても大切な関係していたというのは市長もおっしゃっていた通り、50年以上ということおっしゃった通りだと思いますので、やはり存続するにしても、廃炉にするにしても、まずは若者たちに興味を持ってもらうための取り組みの義務教育、とまでは難しいと思うんですけども、それに近いものとして、小学生あるいは中学生のうちに原子力とはどういうものなのか、放射線というものがどういうものなのか、市長も説明もありましたが、日本のエネルギー事情はどうなっているのかなど、ほとんど半強制的に、その勉強できるような機会を市として作っていただけないでしょうかと思っています。発電所がせっかくあるのでそこを見学してみるのも手だと思いますし、その上で、推進なのか反対なのかは、本人が考えて決めればよいことだと思いますし、繰り返しになるんですけども、まずは少しでもその興味を持ってもらう。考えてもらうきっかけを市として与えていただけないかなと思っています。子供を通じて、親世代も勉強するようになると思いますし、例えば夕飯のときに今日は放射線の勉強をしてきたよとか、発電所に行ってきたよ、なんていうこんな会話が家庭でされるようになればいいなというふうに思っています。

なかなか学校関係だとその原子力のことってのはとても難しいことだと思いますが、ぜひ挑戦をしていただければなと考えていますので、これについてお考えを聞かせていただきたいと思っています。

すみません、最後一点なんですけど、事務局の方をお願いなんですけれども私もそうだったんですが、なかなか発言を躊躇する方ですとか、あるいは時間切れで発言ができなかった方もいらっしゃると思います。それで、あのこういう会に参加する方ってのはやっぱり少しでも興味を持って参加してくれている皆様だと思いますので、次も同じような会があるとすればぜひアンケートを取っていただいて、参加してくださった方の胸の内というか、そういったものを少しでも聞けるような会にして役立てていただければなというふうに思います。はい。私から以上です。

市長：はい、ありがとうございます。先ほど田尻会場のお話をさせていただきましたけども、当事者である私も結構押されてしまったという感じも持っております。

大事なことは、今ほどお話しいただいたように、子供さんも含めて若い世代の方々が、原子力とか原子力発電とか放射線といったものに、まずは興味を持ってもらうことが大事じゃないかという指摘だろうと思います。全くその通りです。

ただ私ども全く何もやってないかと申し上げるならば、そうでもなくて、皆さんどうだろう、学童野球やってらっしゃる人ならわかるかもしれませんが、荒浜に球場がございます。その隣に原子力広報センターというのがございます。そこでは子供さんに放射線、また原子力発電の仕組みなども教えるような、ゲームみたいのも含めて置いてあるところがございますし、また原子力広報センターというのは県が中心になって私どもと一緒に手を携えてやっているところですが、決して原発に賛成しろとか推進しろとか、また反対だとかという偏った観点ではなくて、放射線だとか、原子力というものはこういうものだということを、学校教育の中でも理科の授業の中でも行われているということでございます。これは柏崎のみならずでございます。

そういった、ただ、やはり今ご指摘のように若い世代の方々も含めてどうどうでもいいとは言いませんけどもなかなか興味がない、わからないという方が、他人事になっているという方も多いのかもしれないので、今後一層、またこれは国、県にも大きな責任があると思いますので、国にも、今ご指摘をいただいた子供さん、そして若い世代への興味を持っていただけるような政策展開をするよう、柏崎市としても、国にも、また県にも、今のご意見をしっかりと伝えて、少しでも実現させるよう充実させるようさせていただきたいと思っています。

それからまた、アンケートのことにしましてはなるほど確かにそうですね、ということでございます。また言い足りない部分がありましたら、今日、この会場にいらっしゃる方々も時間もありませんので、市長への手紙などでお話を賜れればと思っております。

司会：〈質問者〉様大変ありがとうございました。先ほどご発言されていますのでちょっとお控えいただいてよろしいでしょうか。はい、他会場で発言されていない方でご意見ある方おられますでしょうか。はい、そうしましたら全体で最後のご意見ということで、時間もすいません、間近になっておりますので、意見の方をまとめていただけると大変ありがたいと思います。

質問者：短くということなので、ここまで私3回以上見ましたけども、市長の巧みな発言です。推進のためだからしょうがないんだと思うんですけども、先ほどの女川の問題とかですね、アンケートの解釈とか、この前比角でお願いしましたけど、UNSCEAR（アンスケア）の問題なんかはやっぱり根本的に考え直してもらってはないとこと福島の子供の甲状腺がんはみんな見捨てられているんですよ。それは質問じゃなくて、単なる印象で。短く質問します。

市長さんがいろいろお話されて、柏崎が繁栄するとか人口が増えるとかいろいろ話されてくるわけですけども、その一方のデメリットの一番大きなものは、事故起きたら、私達はこの柏崎に住めなくなるという。福島がそうなっているように、ここにいる皆さんもみんなここを出て行かなきゃなる。再稼働するということはそのリスクを負うということになるんですけども、市長さんが再稼働これからするかどうか分かりませんしなかもしれないですけども、これだけ一生懸命再稼働に準備しているということは、そのリスク、つまり柏崎に住めない街にしてしまうという覚悟を持っていらっしゃるのか、その点お聞きしたいと思う。

市長：はい。前回ご指摘いただいたものですから、この UNSCEAR（アンスケア）のことに對して、英文は本文はどうなっているんだということでしたので、用意しておきました。いちいち訳しませんけれども、訳しませんけれども、概ねここに書かれていた訳し方で正しいというふうに考えております。

そしてご質問、もし事故が起こったら福島と同じように住めなくなるだけけれども、その覚悟、リスクを市長として負うのかと、負って認識した上で、再稼働を認めるというふうに考えているのかというご質問でございますが、私は結論で申し上げるならば、当然のことながら、リスクはゼロではないと、いうふうに考えています。ゼロではないというふうに思っています。いつも申し上げています、100、0 ということはないわけなんで、ゼロではありません。ということであるならば、そういったことを含めて、私は市長として、判断をしなければいけないというふうに認識をしております。

これは、一国の首相であろうと、知事であろうと同じだろうというふうに思っています。ではそのリスクがゼロではないのになぜ判断をするのかということでございますが、他のリスクもあるということでございます。何度も申し上げていますがこれも、地球温暖化や気候変動は、これは事実として、亡くなっている方も含めて、増えています。

熱中症も新潟県だけで26人。国全体で1000人亡くなっています。豪雨災害による被害、死傷者も多いです。これは事実です。そういったリスクもやはり考えなければいけない。様々

なことを含めて、私は今お話しいただいた、原子力発電所の事故が起こって住めなくなるリスクというものをゼロではないわけですが、そういったものも全て他のリスクも含めて私は判断をしなければいけないというふうに考えております。

司会：〈質問者〉様大変ありがとうございました。終了の時間となりましたので、質疑応答はここまでとさせていただきたいと思います。挙手された方は大変申し訳ございませんでした。多くの方からご質問ご意見を賜りまして大変ありがとうございました。以上をもちまして柏崎刈羽原子力発電所再稼働に関する懇談会を終了とさせていただきます。長時間お付き合いいただきまして大変ありがとうございました。